

避難場所の吉見近隣公園に向かう吉見小児童—24日、
下関市吉見里町



下関市吉見地区の600人

「大切な命を守る」避難訓練

下関市吉見地区で24日、地震と津波を想定した合同避難訓練があった。吉見、吉母、蓋井島の子どもと住民ら約600人が「大切な命を守る」と避難経路を確認し、防災意識を高めた。

地震と津波想定

吉見地区は地震発生時に津波による被害が想定され、同地区まちづくり協議会などによる実行委員会が主催。東日本大震災を教訓に震災翌年の2012年から毎年実施しており、地区内の保育園、小中学校、水産大、自治連合会、長寿会、子ども見守り隊、警察、消防、市、海目下関基地隊など16団体が参加した。

吉見近隣公園、水産大、吉母公民館、蓋井小中学校の4カ所を避難場所に設定。高台にある吉見近隣公園には津波警報のサイレンを聞いた約400人が避難し、毛布を使った傷病者の運搬などを教わった。

吉見小、中学校は合同で緊急時児童、生徒引き渡し訓練も実施。子どもたちは避難場所まで待機し、学校か

妊産婦向けタクシー配車アプリ

下関市 認定ドライバー対応 通院時、手軽に利用へ

下関市は、市内在住の妊産婦を対象にした子育て支援タクシーアプリ「しもまちBABYタクシー（愛称・ベビタク）」を独自に開発した。自宅などの住まいと医療機関との間を移動する際に認定ドライバーのタクシーを手軽に呼んで利用できるようにする全国的にも珍しいサービスという。11月1日から運用を開始する。



アプリ「しもまちBABYタクシー」の画面。ペンギンとタクシーをイメージしたイラストをあしらった

来月1日スタートへ研修会



妊婦の大変さを疑似体験できるジャケットを着用してタクシーに乗降するドライバー—24日、下関市向洋町

妊婦健診や陣痛時などの利用に対応するアプリで、事前に自分の住所と医療機関の場所を登録することでスムーズに配車でき、道案内も不要。助産師による研修を受けたタクシードライバーが対応する。

妊婦健診などで使う場合は一週間先まで日時の予約ができるほか、今すぐ利用したいときは近くにいるドライバーが持つタブレット端末を人工知能(AI)が自動的に選んで通知が送られ、配車可能な車両が来てくれる。陣痛・破水時には専用のコールセンターに電話すると、オペレーターが手配してくれる。

対象者は市内に住民票があり、今年4月1日以降に母子健康手帳の交付を受けた人。利用期間は登録から出産予定日の60日後まで。24時間365日対応(悪天候時などは除く)。陣痛時にはバスオールの防水シートを準備して迎えに来てくれる。片道4回分の無料タクシークーポンをプレゼントする。

24日には市内でベビタク事業に携わる乗務員向けの合同研修会があり、妊娠中や陣痛開始時の人を運ぶ際の注意点を助産師から学んだ。妊婦ジャケットを着用した乗降体験もあり、清水昭弘さん(41)は「思ったより重くて大変だった。妊婦さんの不安を和らげるようなきめ細かなサポートを考えていきたい」と話した。これで計61人が研修を受けたことになる。

市は母子手帳アプリ「ふくふく母子も」も同時にスタート。妊産婦と子どもの健康データの記録や予防接種スケジュールの管理、出産・育児に関するアドバイスの提供のほか、子どもの成長を家族で情報共有できる機能を備える。

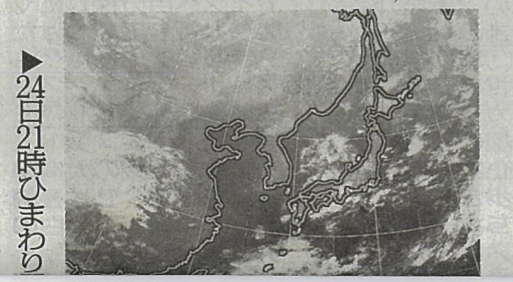
西アプリは市の地域ポータルサイト「しもまちプラス」からも利用できるよう連携させ、しもまちプラス

対象者は市内に住民票があり、今年4月1日以降に母子健康手帳の交付を受けた人。利用期間は登録から出産予定日の60日後まで。24時間365日対応(悪天候時などは除く)。陣痛時にはバスオールの防水シートを準備して迎えに来てくれる。片道4回分の無料タクシークーポンをプレゼントする。

89歳男性の車が屋外売場場突入

岩国、70代女性軽傷

24日午前10時半ごろ、岩国市周東町上久原の商業施設「ミューズパーク」で、同市の男性(89)が運転する普通乗用車が屋外商品売り場に突っ込み、売り場にいた70代女性が右ひじ打撲などの軽傷を負った。岩国署によると、男性は「駐車しようとしてシフトレバーを後退に入れたつもりでアクセルを踏み込み前進した」と話している。



きょう・あすの気象情報

【東部】南の風、晴
【北東部】北東の風、晴
【西部】北西の風、晴
【北部】北西の風、晴
【あす】東部は晴時々曇、中部は晴時々曇、西部は晴時々曇、南部は晴時々曇

【きょうの海上】部0.5級、西、【あすの海上】部0.5級、西、北部

のログインIDを使って各アプリにログインできるようにした。

市が重点政策目標に掲げる子育て支援を体現化するための取り組みで、スマートシティ実現に向けたデジタル田園都市国家構想交付金を活用。前田晋太郎市長は「出産や子育てに頑張る人を強気にサポートする新しいサービス。妊娠から子育てまで切れ目なくサポートすることが可能になる」と語った。

(石田晋作)

防府で電子マネー 28万円分詐欺被害

架空料請求で

防府署は24日、防府市の60代女性が架空料請求詐欺の手口で電子マネー約28万円分をだまし取られたと発表した。

同署によると、7日、「新装オープンの大抽選会がある」というメールが届き、本文に記載されたリンクにアクセスすると「1等2億円宝くじに当選しました」と表示された。サイト内のメールアドレスでやりとりを続けると「当選金の受け取りには手数料が必要」と言われ、他の当選者をかたる者にもサイト上で「本当にもうえた」と言われたため、15日から23日までの間、手数料として同市内のコンビニで16回